

**レーザーエネルギー学研究センター**

I	研究水準	.....	研究 24-2
II	質の向上度	.....	研究 24-3

## I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、研究部門・グループ・プロジェクト研究の遂行に必要な多様な教員を確保し、論文発表 511 件、学会発表 1,401 件を行い、平成 16 年度から平成 19 年度までの受賞は延べ 33 件（教員一名当たり 1 件）となっている。研究資金の獲得状況については、学内他部局や外部研究機関と組織横断的に研究チームを構成し、現在 8 件のプロジェクト研究を推進している。また、各種競争的資金の確保に努め、平成 19 年度総額約 25 億円となり、活発な研究活動が展開されていることなどは優れた成果であることから、期待される水準を上回ると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、大型レーザーに 2 シフト制を導入して運転時間を 5 割増しにして実験時間の約半分を共同利用研究に利用していることなどは優れた成果であることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、レーザーエネルギー学研究センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、レーザーエネルギー学研究センターが想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

### 2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、査読付き学術論文（総計 511 件）のうち、国

際的に高く評価できるインパクトファクター2以上の論文が約半数を占めており、多くが優れた業績として認められる。社会、経済、文化面では、高出力レーザーを用いた応用研究を実施し、極端紫外光源開発、高速点火核融合研究等は、社会的に有用性の高い我が国の基幹産業の発展に寄与する業績と認められる。これらの状況等は、優れた成果である。

以上の点について、レーザーエネルギー学研究センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、レーザーエネルギー学研究センターが想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間における判定として確定する。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

平成16～19年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が2件、「相応に改善、向上している」と判断された事例が3件であった。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間終了時における判定として確定する。